

第1期計画を踏まえた第2期計画における課題（修正版）

No.	1期計画			2期計画
	歴史的風致の維持向上に関する課題	基本方針	主な事業・取組	課題
	歴史的風致の認知に関する課題 ・本市の歴史・文化を総合的に発信する機会が不十分	宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する	<総合的な情報発信> 史跡整備事業 情報発信・観光交流施設整備事業 <参加体験型の取組> 宇治茶普及啓発事業 など 令和3年度：お茶と宇治のまち歴史公園 開園 	整備は完了。 更なる情報発信の充実が求められる。 歴史公園を情報発信の拠点として活用していくことが必要。
	宇治茶や地域の伝統文化の継承に関する課題 ・茶園面積の減少（茶園景観の減少） ・「本ず」の技術伝承 ・伝統行事の担い手の高齢化や参加者の減少	伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る	<茶業の継続、品質向上・「本ず」技術の継承> 宇治茶園支援事業 宇治茶普及啓発事業 <宇治茶ブランドの向上> 情報発信・観光交流施設整備事業 市営茶室対鳳庵活用事業 <伝統行事の継承・振興> 宇治川鶴飼助成事業、歴史・文化啓発事業 など 平成27年度：「日本茶800年の歴史散歩」日本遺産認定 	「日本茶800年の歴史散歩」が日本遺産認定されるなど、一定の成果は出ている。 引き続き、茶業の担い手・伝統技術の継承者の育成、茶園の保護が必要。 上質茶の消費拡大の方策が必要。
	歴史・文化遺産に関する課題 ・古民家や宇治の個性を表す建造物の調査や検証が不足 ・未指定文化財の損傷や老朽化	多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する	<文化財の保存・価値の継承> 宇治上神社拝殿ほか屋根葺替修理事業 <未指定文化財の調査・検証> 文化的景観整備計画策定調査 <観光振興と併せた文化財活用の取組> 情報発信・観光交流施設整備事業 <重要文化的景観や史跡宇治川太閤堤跡の活用> 史跡宇治川太閤堤跡調査 など 	宇治上神社や文化的景観の重要構成要素の修理、史跡指定などを行っている。 一方で伝統的家屋の滅失は依然として続いている。引き続き、町家や古民家の保存・活用の検討が必要。

No.	1期計画			2期計画
	歴史的風致の維持向上に関する課題	基本方針	主な事業・取組	課題
	街並み景観に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建築物の建て替えによるまちなみの連続性の喪失 ・電柱や架空線による景観阻害 	宇治らしい街並み景観の保全・修景を図る	< 景観政策の継続・推進 > 無電柱化事業、建物修景助成事業 < 文化的景観の修景や活用 > 重要文化的景観保存事業 など 平成27年度：文化的景観整備計画策定 令和 2年度：重要構成要素選定（4件） （重要文化財指定）平成29年度：松殿山荘 	建物のファサードや無電柱化事業など一定の成果はある。 引き続き、屋外広告物の指導及び屋外広告物助成事業や建物修景助成事業の利用促進が必要である。
	観光振興に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する観光客の潜在的ニーズに対応した体験参加型施設の不足 ・観光シーズンの宇治橋を中心とした交通渋滞の発生 ・大規模駐車場が少ないことによる一極集中化 ・観光シーズンの無秩序な駐輪 ・複数設置されている観光案内標識による景観阻害 	歴史のまちにふさわしい観光振興を図る	< 新たな観光振興策検討・関係団体と連携した施策検討 > 観光振興計画策定事業 < まち全体を楽しむ参加体験型の観光振興 > 宇治十帖スタンプラリー開催 < まちの回遊性の確保・向上 > 歩道整備事業、観光サイン等整備事業 < 観光駐車場対策と併せた公共交通の利用促進 > 観光交通対策検討調査 など 平成29年度～令和2年度 観光サイン整備 （新規8基、リノベーション15基、撤去38基） 	スタンプラリーや観光サインの整備など一定の成果は出ている。しかし、いわゆるコロナ禍のため令和元年度後期以降、観光客の落ち込みが続いている。WITHコロナ・POSTコロナの新しい時代を見据えた施策の検討を進める必要がある。 引き続き、観光サインの整備などの施策で周遊観光を促進するとともに、新設した拠点を中心に再来訪につながる体験型プログラムの開発をしていく必要がある。
	記念物（遺跡、名勝地及び動植物等）に関する課題 <ul style="list-style-type: none"> ・名勝等の保全活用に関する計画が未策定 ・古墳等遺跡の調査が不十分。 	街並みとともに宇治市の文化的景観を構成する遺跡、名勝地及び動植物等の保全と活用を図る（案）	（史跡指定）平成30年度：宇治古墳群 （名勝指定）平成30年度：宇治山   	近年、史跡や名勝の指定を受けるなど、自然景観等に関する取り組みに関し一定の成果を上げているが、保存活用に関する具体的な方針を定めた計画の策定が必要である。 また、調査が不十分な古墳等の遺跡が残されているので、調査を進めてその価値を明らかにし、保全、活用を図っていくことが必要である。